

ヤナ漁獲アユ中間育成技術開発試験

吉岡 剛

◆背景・目的

ヤナで漁獲されたアユ種苗は、河川放流用種苗として最適とされているが、漁獲後直ちに放流すると冷水病を発症する場合が多い。また、冷水病に感染して生き残ったアユは冷水病に対する抗病性を獲得することが知られている。そこで、ヤナ漁獲種苗に冷水病に対する抗病性を付与する方法を検討した。

◆成果の内容・特徴

- ・平成17年5月4日にヤナで漁獲されたアユ(平均体重14.4g)を除菌区(漁獲後直ちに23°C3日間のち28°C3日間の加温処理)、30%斃死区(冷水病を自然発生させ斃死が30%に達した時点で23°C3日間のち28°C3日間の加温処理)の2通りの方法で6月6日まで飼育した。
- ・試験終了までの歩留まりは、除菌区が93.8%、30%斃死区が60.8%であった。また、同じロットを冷水病対策を行わず飼育した場合の歩留まりは44.3%であった。
- ・除菌区、30%斃死区、対照区(水産試験場で飼育した冷水病を経験していないアユ)を各25尾ずつ0.7t試験池に收容し、水平感染による冷水病攻撃を行った結果、対照区は40%以下の生残率であったが、除菌区、30%斃死区共に80%以上の生残率であり、除菌区と30%斃死区の違いは見られなかった。

◆成果の活用・留意点

漁獲直後のアユを加温処置した除菌区においても冷水病による攻撃後に高い生残率が見られたため、30%斃死区の抗病性付与効果は把握できなかった。今回使用したアユは、初めから冷水病に強かった可能性がある。

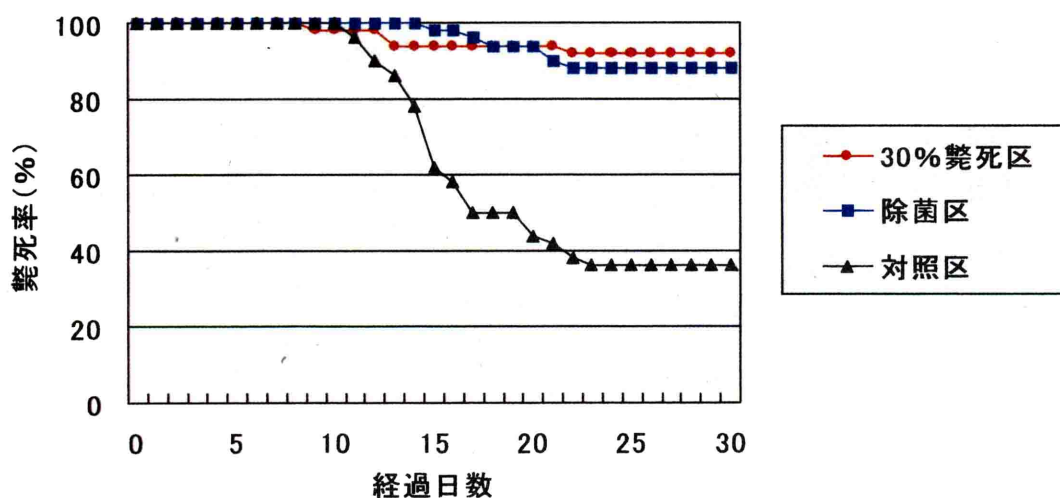


図1. 攻撃試験後の斃死率